

くにみ 議会だより

KUNIMI

No.170
9月議会号



スポーツを通じて子どもたちに笑顔を

10月2日、復興支援も兼ね、8人のオリンピック選手が子どもたちと交流しました。
メダリストと運動して子どもたちも楽しそう！（オリンピックデーフェスタinくにみ）

9月定例会

文化センターホールを改修 改めて町の文化振興の拠点となる

（平成27年度決算を認定） P2

こんなことがありました（27年度のおもな事業） P4

地域密着型特老などの整備補助金を増額 P8

一般質問（11月の町長選挙に向けた考えなど5人が登壇） P13

議会の結束を強め地域復興を促進～伊達郡町議会議員大会～ P20

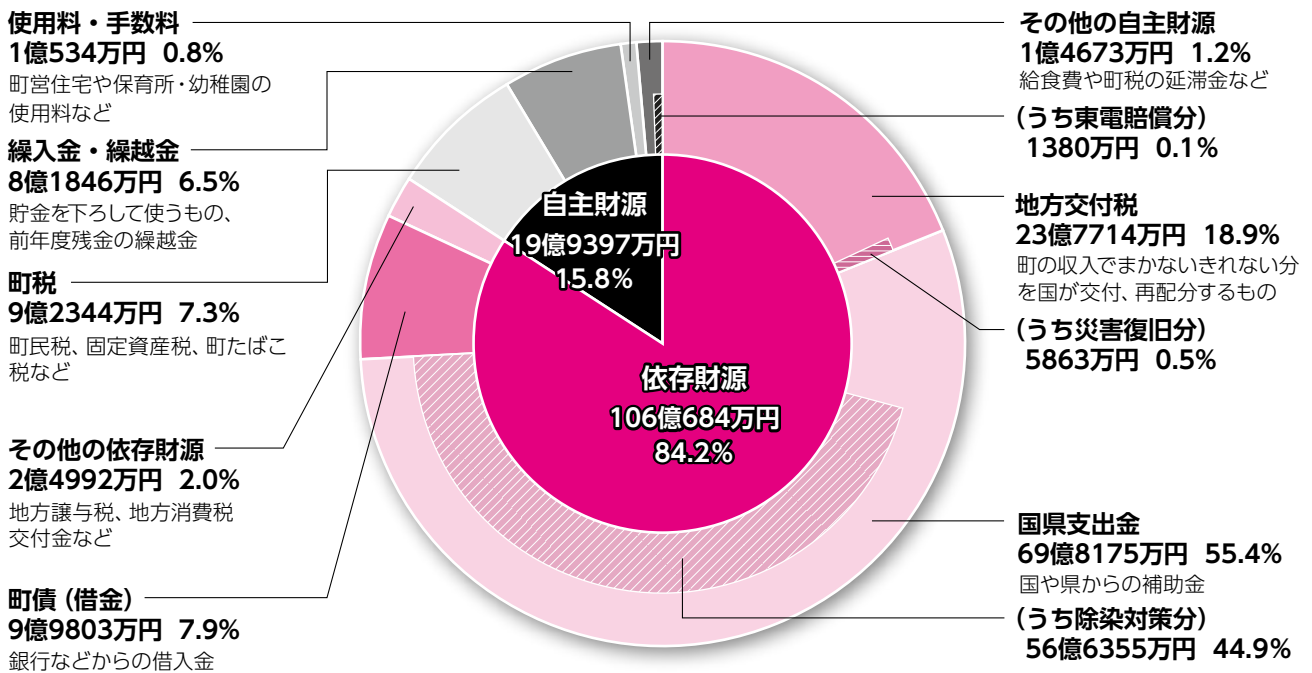
傍聴者からの声「質問事項の資料が配られわかりやすい」 P21

一般会計歳出 118億8621万円

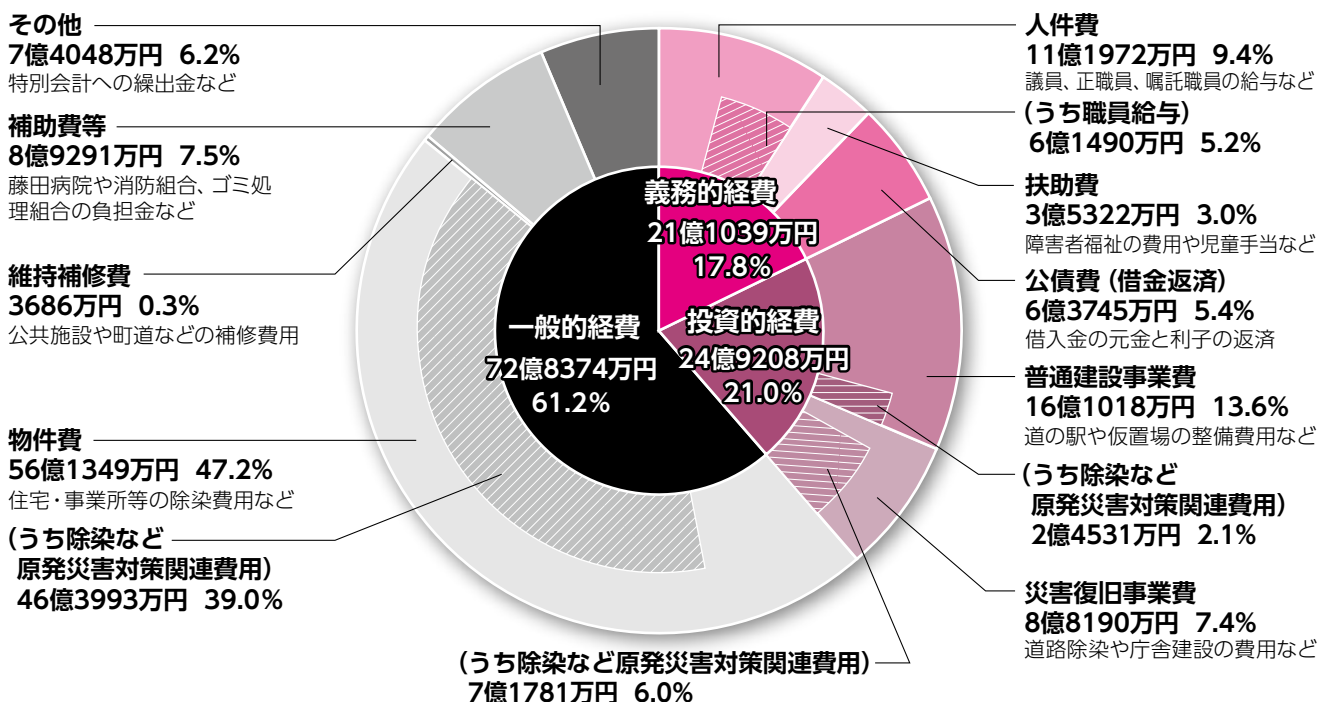
センターホールを改修

町の文化振興の拠点となる

歳入 126億81万円



歳出 118億8621万円



9月
定例会

文化 改めて



初めてのキッズフェスティバルも文化センターで開催されました

9月議会定例会は9月6日から14日まで9日間の会期で開かれました。

今定例会には、平成27年度決算認定や地域密着型特別養護老人ホームとグループホーム整備補助金などを増額する補正予算、町文化財センターの条例制定など28議案が提出され、すべて原案どおり認定、可決、同意しました。
一般質問では5人の議員が登壇し、7項目にわたって町政をただしました。

一般会計決算

平成27年度一般会計決算額は、歳入総額126億81万円(前年比13・0%増)、歳出総額118億8621万円(前年比12・6%増)となり、翌年度に繰越す事業の財源を差し引いた実質収支額は5億5231万円(前年比15・8%増)の黒字決算となりました。

おもな事業は、道の駅の整備や、除染対策(仮置場の管理・整備、住宅などの除染、除去土壌の搬出)の本格的な推進、老朽化に伴う中学校外壁工事、役場機能移

転で震災後使用不可となっていた文化センターホールの改修などが挙げられます。

今後も地方創生や歴史まちづくり計画の推進など主要事業が控えているため、さらなる財源確保と歳出削減などに取り組み、安定した財政運営に努めなければなりません。

歳入

自主財源の中心となる町税は前年比2146万円増、依存財源である地方交付税は、庁舎建設による震災復興特別交付税の減少に

より前年比2億9584万円減となりました。

歳出

義務的経費(人件費などは前年比1億6484万円増、投資的経費(災害復旧費などは4億2323万円減、その他の経費(積立金などは1億6939万円減)となりました。原発災害対策費用は、住宅除染の最終年

度となったことから、26年度より15・2億円増加しました。

■ 主な基金年度末現在高

基金	平成27年度	平成26年度
財政調整基金	8億5304万円	8億5161万円
復興基金(平成26年度新設)	6738万円	1億5002万円
東日本大震災復興(支援)交付金基金	3234万円	8403万円
ふれあい福祉基金	1億5197万円	1億5197万円

■ 平成27年度特別会計決算状況

会計名	歳入総額	歳出総額
公共下水道事業	2億3637万円	2億3278万円
後期高齢者医療	1億1616万円	1億1488万円
国民健康保険	14億6100万円	13億8135万円
介護保険	10億6724万円	10億3972万円
土地開発事業	4583万円	4446万円
渇水対策施設	785万円	756万円
大木戸財産区	142万円	141万円
入山財産区	19万円	16万円

■ 平成27年度水道事業会計

収支別	収入	支出
収益的収支	2億6294万円	2億2455万円
資本的収支	6652万円	1億2024万円

資本的収支の不足分は過年度分損益勘定留保資金及び減債積立金で補てんしました。

■ 町債(借金)年度末現在高

会計名	平成27年度	平成26年度
一般会計	63億1050万円	58億7400万円
下水道	16億9048万円	17億4002万円
合計	80億98万円	76億1402万円

ありました

したおもな事業

道の駅の整備

(28年度工事のようす) **9億3520万円**



道の駅建設に関する造成工事や外構工事などを行いました。

県北中学校外壁等改修

5092万円



老朽化に伴い、県北中学校の外壁などを改修しました。

文化センターの改修

4997万円



大震災後に仮庁舎として利用されていた文化センターを改修しました。

まちづくり推進事業



1047万円

義経まつりや阿津賀志山ビッグツリー、桜まつりなどを実施しました。

明日へ。復興・きずな イルミネーション事業



434万円

イルミネーション、キャンドルパーティーを実施しました。

除染と仮置場の整備管理・ 除去土壌等の搬出

56億6263万円



安心できる生活環境を取り戻すため、住宅や空き地除染のほか、除去土壌等の搬出なども行いました。

太陽光・蓄電池の設置 (観月台文化センター・県北中学校)

1億1577万円



再生エネルギーとして、新たに太陽光と蓄電池を設置しました。

松くい虫防除

2576万円



木々を守るため、松くい虫の防除を行いました。

こんなことが

平成27年度に実施

地方創生の推進 (消費喚起・先行型を含む)

8364万円



集落活性化のワークショップやプレミアム商品券の発行など町の活性化を目指しました。

旧大木戸小学校の活用

2503万円



旧大木戸小学校を歴史資料館に改修しました。

平成27年度決算認定

平成27年度各会計決算認定は、一般会計ほか9件すべてを原案どおり認定しました。
おもな質疑は次のとおりです。

質疑

一般会計

確認申請前に入札は行われるものなのか

問 (浅野富男議員)
道の駅建設工事の前払金が5億7326万円ある。建築確認申請がおりていない中で入札がなされ、議決後に建築確認申請が行われているが、通常もこのような順序なのか。

建設課長 町としては、設計書をもとに積算してもらおう。確認申請のあるなしに関わらず発注は可能である。昨今、デザインビルドという方法もあり、設計・工事を含めた発注方法もある。

住宅使用料の滞納処分は条例通りに進めないのか

問 (阿部泰藏議員)
住宅使用料の収入未済額に、滞納額で200万円を超えるものが1件、100万円を超えるものが2件ある。条例には、家賃滞納者を出さない、初期の滞納額を増やさないとあるが、200万円にも達するものは条例に反するものなのに、なぜ条例通りに進めないのか伺う。

り、問題はないと認識している。

建設課長 住宅管理条例の第41条では、家賃を3か月以上滞納した時について町営住宅の明け渡しを請求することができるとなっているが、義務規定ではな

財政力指数が0.3を切っている要因は

問 (八島博正議員)
町税が2146万6千円増えている。大きな理由は、除染対策で町内業者を集めて組合を作ったことで、町に働く場所が増え、個人町民税も法人町民税も増えたことによるとのことだった。しかし、現在町では0.3を切る財政力指数になっている。収入以上に人件費などの必要経費が増えているためだと思いが、その要因を伺う。

い。悪質な滞納なのか生活が困窮しているのかを踏まえ、分納による対応などにより、債権管理本部を中心に各課との調整を行っている。一概に突き放さず、公営住宅の本旨に基づき、住民の福祉も含めて調整をし、それでもどうしようもない部分については、調停さらには訴訟に進むということまで理解してほしい。

総務課長 町民税は増えていて、全体の需要額に対しての収入額が少ないこと、平成24年度から固定資産税の軽減措置を実施していることにより、本来より1億円近く収入が減っている現状もある。さらに、庁舎の建設も含めて公債費の残高が増加していること、地方創生など財政需要が震災前より増加をしていることが大きな要因である。

※財政力指数とは
地方交付税の規定により算出した基準財政収入額を基準財政需要額で除した数値の過去3年間の平均値。この指数が1に近いほど財政的に余裕があるとされる。

健全化判断比率 (%)

区分	27年度 (26年度)	早期健全化基準
実質赤字比率 ^{*1}	赤字なし (//)	15.00
連結実質赤字比率 ^{*2}	赤字なし (//)	20.00
実質公債費比率 ^{*3}	7.0 (8.1)	25.00
将来負担比率 ^{*4}	62.3 (75.1)	350.00

- ※1 一般会計と公営事業を除く特別会計の赤字の割合
- ※2 公営事業を含む全会計の赤字額の合計の割合
- ※3 収入に対する負債返済の割合
- ※4 将来支払う見込みの負債割合

決算審査報告

代表監査委員 佐藤 徳正／監査委員 松浦 常雄

各会計の決算書が関係法令に準拠しているか、財政運営が適正かを主眼として審査をしました。

その結果、各会計とも黒字を維持しており、計画的な財政執行による収支の均衡と健全な財政運営が行われていました。

また、健全化判断比率、資金不足比率審査は、その算定と基礎となる書類が適正に作成されているかを主眼として実施しました。

その結果、いずれも適正に行われていました。

健全化判断比率は、実質公債費比率、将来負担比率とも前年より下がり、早期健全化基準を下回っているため、良好な状態です。

公営企業の経営状況は、水道事業会計、下水道事業特別会計、土地開発事業特別会計のいずれも資金不足はありませんでした。(抜粋)



佐藤徳正代表監査委員より適正な財政運営であったことを報告

問

(浅野富男議員)

監査の意見書を見

予算の未執行分は前年度に多く仕事を残したことになるのか

ると、一般会計の収支の状況は執行率が75・9%である。予算に対して25%は執行できなかったというところだろうが、前年度の事業で多くの仕事を残したことになるのか。

総務課長

平成26年度からの繰越分と平成27年度からの繰越分の事業があるために、執行率が75%程度となった。また、繰越事業については事業のタイミングがある。国の補助事業を活用する場合は、国の2月の補正で補助をもらうと、年度内には完了できない。その事業費を財源も含め次の年度に繰越をして、事業を進めることになる。

財政調整基金を使いながら町民の要望に応える町政の実現を望む

問

(八島博正議員)

財政調整基金の年度末残高は約8億5000万円であり、十分に町民の要望に応えていける規模だと思ふ。財政調整基金を使いながらぜひとも町民の要望に応える町政を実現してほしいと考えるが、町長の所見は。

町長

短期的に見ると多い金額だが、何かあったときに使えるよう

討論

に、財政調整基金は最低6億円は確保しておきたい。そういった中で、町民の目線で安全安心をどう担保するかを考えており、余剰ができれば目的基金に積んでいる。まずは町内会などで議論をいただき、要望に回せるような原資にしたいと思っている。今後とも、町の未来に向けて、町民が住んで良かったと思えるまちづくりを努めたい。

反対討論

(浅野富男議員)

本案には道の駅建設に対して前払金の支出がある。これを執行することに於いて、その入札結果に疑問が残る再入札があつてしかるべきものと考えているが行われなかったこと、このような道の駅建設の進め方について町民は納得していないこと、議会に諮ること

賛成討論

(佐藤定男議員)

なく大幅な変更を行ったことなどから、本議案については、道の駅建設工事に限って承認できない。

道の駅はまさに今建設工事中であり、町は入札に始まり、一連の行政手続きにおいて公正・適正に実施している。さらに、道の駅の件については、先ほど町長から再度説明もあった。先の6月議会の一般質問でも町は丁寧な答弁をしている。町民のほとんどの方はそれを理解し納得している。したがって、本議案についてはこの問題に関わらず、全事項について賛成する。

地域密着型特老などの 整備補助金を増額

平成28年度補正予算のうち、一般会計(第3号)は3億8182万円を増額し、予算総額96億8782万円とすることを全員賛成で可決しました。

おもな内容は、地域密着型特別養護老人ホームとグループホームの整備補助金に1億8502万円や、道の駅の什器備品購入なども含む開業準備費用1億800万円、小学校校庭改修工事の不足分1895万円などで、その財源は補助金や町債(借金)などでまかないます。

質疑

地方創生広報アドバイザー委託料の内容は

(渡辺勝弘議員)

問 地方創生費の1000万円の増額は地方創生交付金事業に係る広報アドバイザー委託料となつているが、その内容を伺う。

企画情報課長

これまで特に6次化商品などのブランドディングに力を入れてきた。今度は国見そのものをPRするために、広報戦略や地域ブランド戦略の策定、ロードマップ、さらには職員も含めて情報発信やデザインについての研さんを積んでレベルアップをしていくことを、今回のアドバイザーを含めて追求していきたいと考えている。

へき地児童 援助費とは

問

(松浦和子議員)

歳入でへき地児童援助費の増額があるが、これについて説明を願う。

教育次長

スクールバスの一部補助金である。

元気な産地づくり 整備事業とは

問

(井砂善榮議員)

元気な産地づくり整備事業で141万6千円の計上があるが、どのような事業なのか。

産業振興課長

共同の組織でリーダーを更新したいとい

平成28年度一般会計 補正予算(第3号)の主な内容

【主な事業】

・地域密着型特老・グループホーム整備補助金	1億8502万円
・道の駅の什器備品の購入費用	6000万円
・道の駅開業準備のための補助金	4800万円
・国見小学校校庭改修の工事費	1895万円
・補修工事など町道の維持管理費	1149万円
・地方創生推進のための広報アドバイザー委託費	1000万円
・その他(観月台公園太鼓橋の補修、町営住宅修繕など)	4836万円
計	3億8182万円

【主な財源】

・町債(借金)	631万円
・地方交付税	221万円
・その他(繰越金・基金繰入など)	1億6954万円
・国・県からの補助金など	2億376万円
計	3億8182万円

国見の里に導入する 介護ロボットとは

問

(渡辺勝弘議員)

国見の里への介護ロボット導入に係る補助金として92万7千円の計上があるが、導入するロボットはどのようなものなのか。

保健福祉課長

自立して動いたり介護職員が

うことで、総事業費425万円の3分の1の金額が国から助成されるものである。

装着するようなものではなく、職員が行う入所者の見守りを支援するシステムである。ベッドにセンサー付きのマットを敷き、入所者の睡眠の状態や活動の様子を、居室に行かなくてもリアルタイムに事務室のパソコン上で監視ができるシステムになっており、介護職員の見守り負担を軽減するものである。今回、センサー付きマット7枚、監視用パソコン1台分の構成である。

学校給食の活用事業は新たな事業か

(浅野富男議員)

教育費委託金に、

社会的課題に対応する学校給食の活用事業として143万2千円の補正があるが、新たな事業として取り組むのか。

教育次長 これから新規に取り組むもので、社会的課題というのは、食品ロス、地産地消と考えている。

まちづくり交流推進費で購入する備品とは

(志村良男議員)

まちづくり交流推

進費で備品購入費6000万円増額があるが、どのような機器を購入するのか。

まちづくり交流課長 道の駅に備

える備品で、直売所に物を並べる売台、カフェや研修室のテーブル・椅子、宿泊室のベッドなどの購入費である。

超勤を減らすため庁舎内での取り組みは

(八島博正議員)

職員の超勤手当が

5486万9千円増額されている。ノー残業デーも実施していて、職員の能力の差もあり難しい問題だが、総合的に職員同士でどうしたら残業を少なくできるかを再検討する必要があるのではないかと。庁舎内での取り組みについて伺う。

副町長

復旧復興の途

上でもあり、町の魅力や活力を引き出すために道の駅整備に加え、産品開発なども行っており、職員の労働密度が高くなっている。この復旧復興に対応する取り組みもあと2、3年で終息してくると予想される中で職員を増やすこともできかねるため、どうしても超過勤務に頼らざるを得ない状況である。そのようなかで業務量に合わせて機構改革や職員のメンタルヘルス対策なども行ってお

り、超過勤務が多い状況を何とかしなくてはならないといういろいろな方策を探っている。縮減に向けて今後とも鋭意検討していきたい。

大雨で砂利が流れる度に補正を行うのか

(阿部泰藏議員)

林道整備事業の工

事請負費で138万4千円の増額があるが、大雨などで砂利が流れた場合はその都度補正予算を組んで事業を行うのか。

産業振興課長 今回、林道小

今回、林道小く分で増額をした。一旦グレーダーをかけて碎石を敷くと、相当強い大雨が来なければ数年は維持管理できると考えており、車両の通行に支障がないように必要最低限の整備である。また、予期せぬ大雨などの災害によるものは、基本的に補正予算での事業となる。

農地中間管理事業はどのような事業か

(松浦常雄議員)

農地中間管理事業

とはどのような事業なのか。

産業振興課長 農地の出し手

と受け手を仲介する農地中間管理機構の行う事業で、遊休農地などの措置に関する業務が新しく設けられたため、補正するものである。

町道修繕工事の増額はどのあたりの分か

(松浦常雄議員)

道路橋梁費の中に

町道修繕工事の増額分があるが、具体的にどこなのか。

建設課長 どこというわけ

ではなく、予算が底を尽きかけているため、緊急的に対応できるように予算を確保した。

小学校校庭整備の内容は

(村上一議員)

小学校校庭整備で

1894万9千円の増額があるが、どのようなことをするのか。

教育次長 校庭の暗渠工事と

クレー舗装を考えている。面積は4524平方メートルである。



校庭整備で水はけも改善し活動しやすくなります

旧大木戸小学校を 文化財センターに改修



8月には文化財センターの内覧会が開催されました

町文化財 センター条例

(要旨) 旧大木戸小学校を改修し、新たに国見町文化財センターとして設置するため、その用途や管理など必要な事項を定める。また、公益的な使用でない場合の使用料を定める。

施設の管理は 町で行うのか

問 (渡辺勝弘議員)
文化財センターは、町の施設として管理も町で行うという理解で良いか。

課 生涯学習 課長 文化財関連の展示をするので案内・説明をすることも考えている。当面職員を配置し、町が管理する中で運用を図っていききたい。

愛称の公募を行い 親しみやすい施設に

問 (渡辺勝弘議員)
同じく廃校利用の旧小坂小学校は愛称を公募して親しみやすい名前で開催している。この施設でも愛称を公募し、親しみやすく入りやすい施設にすべきだと思うが、どう考えているか。

課 生涯学習 課長 利用については地区の方々や歴史関係団体と相談し、愛称も現在募集している。地域の方々にも利用してもらえようという、より愛着の持てる施設になるよう考えている。

施設のオープン予定と 見学時の料金は

問 (佐藤定男議員)
オープンはいつか。また、文化財の見学はいつでも可能なのか。料金はかかるのか。

課 生涯学習 課長 施設の利用は10月1日から可能である。展示物については、展示に要する時間がかかるため12月上旬オープンで考えている。また、展示物の見学は土日も可能であり、特設展示も含め、自由に見てもらえるよう料金はいからない。今回規定した料金は、個人または団体が占有して使用するときの料金である。

年間開館日数と職員数は

問 (阿部泰藏議員)
年間何日くらい開館するのか。また、職員は常時何人の雇用なのか。

課 生涯学習 課長 基本的に閉館と考えている。また、職員については、現在、文化財に精通していて案内ができるような臨時職員を配置して対応したい。

条例改正

幼稚園通園費の助成に関する事務を追加規定

町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例

(要旨) マイナンバーの独自利用事務について、対象となる幼稚園通園費の助成に関する事務を追加規定する。

理由は
独自利用事務追加の

問 (浅野富男議員)
6月の定例会でも事務の追加があったが、今回も同じような理由か。

総務課長 前回同様に、必要な事務であるため、独自利用事務を追加するものである。

討論

反対討論

(浅野富男議員)

この個人番号制度は、国民一人一人を番号で管理し、個人の尊厳が否定されかねない。また、安全上の問題も確立されているとは言えないことから、運用については中止すべきものと考え、本条例には賛成できない。

賛成討論

(佐藤定男議員)

マイナンバー制度はすでにスタートしている。運営上の整合性のために条例を改正すると理解し、本条例に賛成する。

その他

消防ポンプ自動車一式を購入

動産の取得

(要旨) CD-I型消防ポンプ自動車一式を1668万6千円で「株式会社モリタ仙台支店(宮城県)」より購入する。

新しいポンプ自動車はどの分団に配置されるのか

問

(井砂善榮議員)

ポンプ自動車はどの分団に入るのか。また、古い車両は何年使用したのか。相手方は仙台市の業者だが、福島県には購入できない業者がなかったのか。

課長

ポンプ自動車を配置するのは、第1分団第2部(小坂消防屯所)である。古い車両は平成6年式で22年目である。また、契約の相手方

は指名業者2社による入札の結果、「株式会社モリタ仙台支店」に決定した。

車両の更新

基準は

問

(村上正勝議員)

車両の更新は、キロ数ではなく経過年数によって行うのか。目安は何年なのか。

課長

町の消防車

両は、走行距離ではなく経過年数で20年経過したら更新してきた。ただし、複数台の場合には財源の問題もあるため、消防団幹部会議で協議をし、どの車両から更新するかを決定している。

議案審議結果

※下記以外の案件は全員賛成で可決されています。

議員名	議決結果	八島 博正	志村 良男	浅野 富男	阿部 泰藏	松浦 常雄	渡辺 勝弘	村上 正勝	佐藤 定男	井砂 善榮	村上 一	松浦 和子
議案等												
議案第49号 国見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
認定第1号 平成27年度国見町一般会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対 □：討論者

※議長(東海林一樹)は採決に加わらない。

町長の行政報告（抜粋）

●台風7号、9号、10号の対応については、庁内の対策会議を開催。大雨・洪水警報発令後は、関係職員を警戒配備し、避難所の開設を行うとともに、防災無線を活用し、住民の安全安心を第一に対応した。その結果、18名の自主避難者を収容し、大きな被害の発生には至らなかった。

■東日本大震災からの早急な復旧・復興

●除染対策は、道路、生活圏の森林、水道施設の除染に取り組んでいる。また、公共施設に埋設保管している除去土壌等の搬出は、11か所のうち7か所で作業が終了した。

●風評被害トップセールス、特産品PR事業では、町特産の「もも」収穫期に合わせ、首都圏、中部・関西圏、北海道などで国見ジュニア応援団や青年後継者らとともに、おいしさや品質の高さをPRした。

●米の全量全袋検査は、福島県産米の信頼性の回復と食の安全・安心の確保のため、今年度も引き続き取り組む。

●あんぼ柿の加工・出荷については、生産目標量を震災前の80%、1,250トンとし、「福島県あんぼ柿復興協議会」で最終的な取り組みが確認される。

■安全安心な町政の実現

●総合防災訓練は、9月11日に各町内会の避難訓練と上野台運動公園への輸送訓練を中心に実施。

●阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策については、国土交通省では県および沿川市町村と連携して減災対策会議を設立し、今後5か年で取り組むべき内容を9月中には決定する見込み。国見町防災会議でも「地域防災計画」、「水害ハザードマップ」の見直しを行う。

■活力ある町政の実現

●9月22日に実施した義経まつりでは、義経役に若手俳優の佐野岳さんを起用し、静御前・弁慶役の公募には遠方からも多数の応募をいただいた。

●道の駅整備事業については、建設工事では、8月末から鉄骨工事を実施し、10月からは内装工事を予定するなど順調に進んでいる。ソフト事業では、道の駅の愛称が「あつかしの郷」に決定し、8月7日に表彰式を行った。

■思いやりのある町政の実現

●くにみキッズフェスティバルは、8月7日に観月台文化センターにおいて町内外からの多くの参加で開催した。

●くにみもたん広場は、8月18日に入場者10万人を達成し、9月5日には3周年記念セレモニーを行った。

●国見町食育推進検討委員会は、8月26日に第1回の委員会を開催し、来年3月までに「国見町食育推進計画」を策定することとした。

●森のおもちゃフェスティバルは3年目を迎え、7月16日・17日に開催した。ママフェスタは昨年までのママまつりをバージョンアップし、7月17日に開催した。

■町の継続的な維持発展

●国見町結婚世話やき人は、7月28日に申込みのあった10名に対して登録証を交付し、研修会を実施した。

●国見町応援大使は、7月1日にミュージカル俳優の沢木順さんに、7月30日に演歌歌手の市川由紀乃さんにそれぞれ委嘱状を交付した。

●ヤングカレッジ事業は、8月15日に旧小坂小学校で国見町出身の大学生、高校生を対象に開催し、国見町の活性化を図る観点から意見交換を行った。

●域学連携では、桜の聖母短期大学との6次化商品の開発を進め、7月29日には「ももスイーツ」4種類の試食会をくにみ幼稚園で行った。福島大学と進めている集落活性化では、3年目の内容谷地区に加え第9町内会での調査も開始し、小坂地区の「まるごと博物館事業」と合わせ、今後も連携しながらまちづくりを進める。

●平成27年度の個人県民税収納率は98.46%で、震災の影響による平成23年度を除き10期連続で管内トップとなったため、7月20日に個人県民税優良市町村知事感謝状が贈呈された。

●貝田地区のほ場整備事業は、実施設計と現地ほ場の境界測量が行われており、早ければ年内にも一部の面工事に着手する見込みである。

●県北中学校外壁等改修工事は、8月末に完了した。

「私もひと言」原稿を募集

議会だよりにみなさんからの意見や要望、議会を傍聴した感想などを掲載します。日頃から思っていること何でも結構です。字数は600字（400字詰め原稿用紙1枚半）程度です。どしどしお寄せください。

広報常任委員長 渡辺勝弘
(事務局 Tel.585-3295)



人権擁護委員の任期満了により、赤坂正弘氏（内容）を適任と認めました。



人権擁護委員候補者
に赤坂正弘氏

人

事

～5人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



町政を問う

一般質問

9月定例会

議員	質問事項	ページ
松浦 和子	11月の町長選挙へ向けての考えは	14
渡辺 勝弘	桜の森の今後の利活用は	15
阿部 泰藏	森林再生に向けた町の今後の取り組みは	16
佐藤 定男	行財政改革は今後どのように進めていくのか	17
浅野 富男	特殊技術の取得に対する町の考え方は	18
	ニュータウン歩道補修の今後の取り組みは	
	公開質問状が提出されたことへの町の考えは	

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>]

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ

Q 11月の町長選挙へ向けての考えは

A 出馬することをいっことで表明する



松浦和子議員

町長

これまで「復興・絆・国見の未来をみんなで作る」ことを念頭に、東日本大震災からの復旧復興や元気活力事業などに全力を挙げて取り組んできた。こういった中、少しずつではあるが、町にも復興・再生の光が見えつつあると私自身も思っており、おそらく町民の皆様方も同じ思いをされているのではないかと考えている。これも町民各般の献身的なさまざまなご支援とご協力のおかげである。改めて敬意と感謝を申し上げます。

問 平成24年11月27日復興への期待を一身に受け太田町政がスタートし、4年を迎える。私たちが元の暮らしを取り戻すべくわが身を惜しむことなく全力投球をいただいている。女性の活躍の場が増え、子どもと高齢者への対応や町の活性化事業に積極的に取り組んでいただい

ていることなど、高い評価を受けていると感じている。

任期満了に伴う町長選挙に町発展のため続投を望む声が多く聞かれる。そこで、11月の町長選挙について町長の考えを伺う。

しかしながら、町の東日本大震災からの復

興、再生・まちづくりについては、まだまだ道半ばの部分もある。町としての将来への維持発展には、さまざまな課題を積極的に解決し、前に前に進めていく必要があるものと考えている。

こういった中、6月議会以降、数多くの町民の方々からも町長選2期目の出馬の強い強い要請がある。さらには、8月27日に開催された私の後援会の役員会からも、正式に町長選挙出馬への強い要請があった。

私自身、浅学非才、能力を持ち合わせてい

ないが、こういったさまざまな背景があり、そして議会や町民の皆様方の要請に真摯に応えるため、まさにオール国見で支えていただくことを前提とし、3か月弱の1期目の期間、全力で町政を執行していくことを誓いながら、11月に実施予定の国見町長選挙に出馬させていただきます。



未来を担う子どもたちも生き生きと活躍できるまちづくりを

Q 桜の森の今後の利活用は

A まずは森林委員会と協議しながら前向きに取り組む

問

「桜の森」について、桜の開花後は耕作放棄地のようになり、公園とは程遠い現状をどう考えているのか。

林委員会と十分協議の上、当面事業を中断している。現在は桜の生育に影響が出ないよう、年2回程度の除草と薬剤散布など必要最低限の維持管理を行っている。現在の状態では良いとは考えておらず、財源も含め、森林委員会と十分協議をしながら前向きに検討する必要があると考えている。

問

町民からも「桜の森」が聞かれるが、PRは十分だという考えか。

問

第2の桜の名所にするためには、どのように町民の協力を得てやっていくのか。また、説明も必要ではないか。

問

「桜の森」を町内外の人たちの憩いの場とするために、どのような利活用を考えているか。

町長

「桜の森整備構想」を策定したものの、除染のフレコンバッグが留め置きされるなどのため、森

良いとは考えておらず、財源も含め、森林委員会と十分協議をしながら前向きに検討す

産業振興課長

現在は整備を中断しており、積極的なPRはしていない。今後の森林委員会などの意見を踏まえ、整備状況に合わせて進めていきたい。

産業振興課長

町の財源も限られ、維持管理には町民の理解と協力が不可欠である。より効果的な活動体制、協力体制の構築も含め、今後検討を加え対応していきたい。

町長

町民の意見も聞きながら、まずは森林委員会と協議し、整備のあり方について検討をいただくことが大切だと思っている。整備にあたっては、道の駅国見「あつかしの郷」や阿津賀志山防

教育次長

小・中学校が現地を確認した上で、学習効果や効率性、安全性の面から整備後の状況を踏まえ、活用できるかを検討していく。

産業振興課長

全体的な構想の再構築も含め、森林委員会などで協議していきたい。また、町内外の皆様に参画してもらえ、方策についても、県内・県外さまざまな事例を調査・研究して進めていく。

壘、下二重堀地区などの整備事業と桜の森を観光的な視点で関連付けられないかと考えている。また、トレッキングコースやスポーツレクリエーションへの利用も望ましいと思うので、実施の時期や財源の問題があるが、今後の道筋をつけていく必要がある。時間をい

ただきながら利活用を十分協議し、前向きに取り組むたい。



渡辺勝弘議員

問

小学生の野外学習の場や中学生の部活動のランニングコースとして活用できないか。

問

桜の里親プロジェクトとして、植樹・整備を進め、新たな観光名所として計画できないか。



桜の森をぜひ町民の憩いの場に

Q 森林再生に向けた町の今後の取り組みは

A 国や県との広域的な観点での対応が重要である



阿部泰藏議員

に関心がない現状である。このような中で、推進は困難だと思いが、町の考えは。

課 産業振興 長

森林は植栽から成木

になるまで50年から80年がかかる。長いスパンでいろいろな事業を進めながら森林を守っていくことが必要であり、その計画の一部として森林整備計画があると考えている。行政がすべてをやるのではなく、所有者とどういう事業を入れていくのがよいか相談しながら対応していきたい。

問 私有林が耕作放棄状態にある

中で、これからのように森林の民有化を進めていく考えなのか。

課 産業振興 長

森林施業の共同化・

合理化を進めるとともに、事業者の森林経営計画を確実に実施していくことで、人材の育成と確保をしていきたい。

町長

シンボルとして親しみを持たれてきたアカマツは、保全をしていくことが大切だと思う。さらに意を配って対応していきたい。

問

今後の町の森林再生に向けた取り組みを伺う。

町長

林業の振興や森林再生は、町単独でできる問題ではなく

アカマツは町のシンボルで町民にも強い思い入れがある。松くい虫の被害が大きくなればシンボルの変更もあるのか。

課 産業振興 長

標高400m以上の

ところで被害が少ないことが確認されており、中長期的には保全は可能と考えている。

問

町の人工林は半分以上が標準伐採期間の50年以上を経過し伐採の時期に至っているが、伐採後の植林は義務付けられているのか。

流失の可能性も高まる。また、森林の保全や景観の観点からも、伐採後は基本的に植林をして山を保護する計画をしている。

課 産業振興 長

森林を伐採すると、水源養成の機能や土砂

問

計画推進には所有者や地域住民の意向を踏まえる方針だが、所有者も森林

きた。国や県と広域的な観点から対応することが非常に重要である。原発事故からの森林再生のために行われている福島県森林再生事業で、継続的な出資

を要望していきたい。ソフト面も重要で、ウッドスタート宣言をはじめ、小中学校の森林学習や森林に親しむイベントなど、森林を意識した事業を行っている。森林計画をどうするのか議論をしつつありして、ハード・ソフトの両面から真剣に考える時期だと考えている。



松くい虫防除作業後にはしっかり検査も行います

Q 行財政改革は今後どのように進めていくのか

A 行政経営的な視点を重要視する

発対策課が6台、他の課は1〜3台となっており。総務課が特に多いのはなぜか。

総務課長 一定台数を総務課が集中管理することで稼働率を向上させるためである。

車内空間も格段に広くなり十分対応できると思うが、町の考えは。購入価格や雑持費、燃費、重量税などを経費節減の面から考慮し、軽自動車間で間に合う部分は極力切り替えをしてきた。今現在の在庫台数がだいたいあるべき基準数と考えている。

もあまりないと思う。また課の間で貸し借りもできる。総台数削減についての考えは。

問 町では行財政改革を推進すべく平成18年度から平成27年度までの10年間に

企画情報課長 平成18年度に行財政

事業、進捗の管理については、毎年の予算編成の時期に企画情報課と総務課で総括をして

問 車種の内訳をみると36台のうち普通車が21台、軽自動車

保有台数36台は職員3・4人ではないか。一つの課が同時に2台使うこと

近い将来、第5次の改革大綱をぜひ作りたいと考えている。公用車の問題についても、基準をしっかりと作って、前向きに検討・改善をして対応していきたい。

め実施計画を策定している。途中東日本大震災があったが、この改革の総括はしているか。また、平成28年度からの行財政改革はどのように進めているか。

行政評価制度を導入し、事務事業の評価あるいは施策の評価として段階的に進めてきた。震災が起これ一時中断している状況もあるが、行政評価の事務

の職員の提案制度のようなものはあるか。

総務課長 機材を積む車両や一定の人数を運ぶための目的に即した車種は必要と考えている。普通車にするか軽自動車にするかの基準は特にない。

問 経費削減・事務効率化のための

は平成27年度までは大綱に基づいて扱ってきたが、平成28年度以降は、行政経営的な視点での議論を重要視しながら進めている。

課 平成18年度に行財政改革大綱を策定し、毎年進捗管理を行ってきた。平成20年度からは行政評価制度を導入し、事務事業の評価あるいは施策の評価として段階的に進めてきた。震災が起これ一時中断している状況もあるが、行政評価の事務

課 行政評価導入と同年の平成20年6月に、職員の提案制度について要綱を制定している。

問 経費削減・事務効率化のための

問 経費削減・事務効率化のための

問 経費削減・事務効率化のための

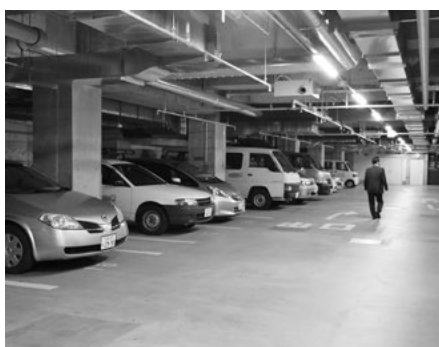
近い将来、第5次の改革大綱をぜひ作りたいと考えている。公用車の問題についても、基準をしっかりと作って、前向きに検討・改善をして対応していきたい。



佐藤定男議員

問 公用車の総台数は36台、各課管理の台数は総務課が19台、原

問 目的が明確な車種以外は全て軽自動車にしようと思う。今の軽自動車は排気量がアップし、



地下の公用車専用駐車場

近い将来、第5次の改革大綱をぜひ作りたいと考えている。公用車の問題についても、基準をしっかりと作って、前向きに検討・改善をして対応していきたい。

Q 特殊技術の取得に対する町の考え方は

A 専門知識が必要な職場以外は一般行政職で採用する



浅野富男議員

問 町と雇用関係にある職員の中で、どんな資格を持った人がそれぞれ何人いるか。また、処遇についてはどのようなになっているか。

1名在籍している。給料表は一般行政職の1本で、技術職の給料表はない。保育士などは経過の中での格付けで対応している。

総務課長 建築関連で、2級建築士の資格を持つ任期付職員が

問 特殊技術を持つことに対する町の考え方とはどのようなものか。

町内の歩道には東日本大震災による影響とみられる凹凸が目立

つ部分がある。これは復興事業とは違うのか。

建設課長 大震災の被害は平成23年度に単独災害復旧事業として工事を施工している。復旧事業は、公共土木施設災害復旧事業として採

取られている。役場庁舎などの管理は資格者のいる専門業者に委託するのが一般的である。しかし、専門技術を取得することについては拒むことはない。

ニュータウン歩道補修の今後の取り組みは

問 ニュータウン内の歩道には東日本大震災による影響とみられる凹凸が目立

つ部分がある。これは復興事業とは違うのか。

問 この凹凸については早く修繕する必要があると思うが、今後はどう取り組むのか。

建設課長 平成23年に大きな凹凸は修繕した。経年劣化もあるが、街路樹の根張りを持ち上がっているような状況もある。今後の劣化状況を見ながら町内会と相談する。



歩道の路面のタイルが剥がれて凹凸に

公開質問状が提出されたことへの町の考えは

問 道の駅建設に関して、町民から公開質問状が町宛てに提出された。このことについて町の考え方は。

町長 先の6月議会で設計者の変更や設計変更について、各種行政手続きは法のつとり公正・適正に

進めていると答弁した。町民の代表である議会に対して、議場において真摯に答弁し公式に明らかにしてきた。公開質問状への回答については、町民代表の最高の府である議会ですべて説明責任を十分に果たしており、町民個々に回答すべきではないと認識している。

副町長

公開質問状自体は法に定義されているものではなく、回答の義務についても法の裏付けのないものである。真摯に対応するため、内容を道の駅国見プロジェクトチームで十分に検討した結果、6月議会において答弁していることを踏まえ、最終的に回答致しかねるとの結論に達した。

県北中学校で行われた 3工事を確認

総務文教

8月10日、学校教育課の
所管事務調査で県北中学校

を視察してきました。平成
27年度から28年度にかけて
中学校で行われた工事は以
下の3つです。



①薄いピンク色の校舎に生まれ変わりました

① 外壁等改修工事
県北中学校の校舎は、築
30年以上が経過し、経年劣
化と東日本大震災により外
壁の亀裂や雨漏りが見られ
ました。安全面と機能面の
向上を図るため、平成27年
度から改修工事が行われ、
今年8月末に整備が完了し
ました。危険防止の観点か
ら改修工事は必要不可欠で
あり、新しい校舎に生まれ
変わった感じがしました。



②非常時の電力供給に利用できる蓄電池

② 太陽光発電設備、蓄電池
設置工事
中学校の屋上に太陽光パ
ネル20キロワット、正面玄
関脇にリチウム蓄電池20キ
ロワットが設置されまし
た。停電時には蓄電池より
電力供給ができ、避難住民
の受け入れ時の電力確保が
できます。また、太陽光パ
ネルで発電した電気は、日
中は校舎で有効活用され、
電気料も前年度より減った
ということで、経費削減に
も役立っていました。



③新しい設備で校内放送も充実

③ 校内放送設備改修工事
改修前の校内放送設備は
約30年間使用されており、
音声ミキサー部などに故障
も見られ、新学期に向け生
徒が安心安全な学校生活を
送るため春休み中に改修さ
れたものです。新設備には
最新式のデジタルハイビ
ジョンシステムが導入さ
れ、機器の操作もかなり改
善されており、校内放送に
大いに役立つものと思われ
ます。

(報告者 松浦常雄)

伊達郡町議会議員大会

議会の結束を強め地域復興を促進

7月15日、桑折町、川俣町、国見町の伊達郡内3町の議会議員による第11回伊達郡町議会議員大会が桑折町の室内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」で開催されました。

大会では、国、県等関係機関へ提出する要望事項8

案件について審議しました。国見町が提出した要望事項は次のとおりです。

- ◎ 桑折町・国見町・川俣町
- ・有害鳥獣対策の強化
- ◎ 桑折町・国見町
- ・藤田病院の医師確保
- ◎ 国見町
- ・国道4号の整備促進と信号機・地下横断歩道の設置並びに県道の歩道設置
- ・普蔵川、滝川、牛沢川の改修促進

その後、2つの決議案が採択されました。

「地方議会の改革について」

講師
福島大学 功刀 俊洋 教授

地方議会改革の経緯と現状について話があり、国見・桑折・川俣町議会の現状は「議会だより」の発行によ

り、情報公開・広報が充実しており評価できるとのことでした。また、質疑を通じて行政監視機能を果たしているとの評価もいただきました。しかし、住民の議会への関心も参加意欲も極めて低く、議員と議会は身近な代表者・機関として見られていないこと、議会報告懇談会のあり方や方法を改善すべきであることの指

※一部事務組合報告

※一部事務組合とは
複数の市町村が、事務の一部を共同で行うために設置する団体

小野誠滋議員(伊達市)が議長に選任

伊達地方消防組合議会

7月14日、消防組合臨時会が開催され、任期満了に伴う議長選挙のほか、救助工作車など動産の取得3件

摘がありました。

最後に、昨年行われた3町の町議選についての講評がありました。国見町は前回無投票でしたが、今回選挙が行われたことは評価できるとのことです。三町とも、議員の平均年齢が高いのはやむを得ないとのこともありました。

(報告者 村上 一)

についての審議が行われ、全議案について可決されました。

議長選挙では、小野誠滋議員(伊達市)が議長に選任されました。

(報告者 村上正勝)

暴風の影響で水道橋耐震補強工事を繰越

福島地方水道用水供給企業団議会

(自然の水を浄化し、水道水として国見町、福島市、桑折町など3市3町に提供する事務組合)

8月30日、企業団議会定例会が開催され、28年度補正予算の承認や27年度決算認定が行われ、全議案が可決・承認されました。また、

27年度までの2か年継続工事であった伏黒水道橋耐震補強工事について、暴風の影響で工期が延長され、予算が事故繰越しとなることの報告がありました。

平成27年度決算認定

◆収益的収支決算額

収入 49億7826万円

支出 46億9296万円

◆資本的収支決算額

収入 1132万円

支出 19億6956万円

(収支差引不足分は、過年度分の留保資金などで補いました)

(報告者 東海林一樹)

傍聴者からの

声

「質問事項の資料が配られわかりやすい」

9月議会を傍聴したみなさんからアンケートによりたくさんの意見をいただきました。

- 質問事項と要旨の資料が配られ、わかりやすくて良かった。(60代・男性ほか3名)
- 通告書の全文を読み上げただけで質問になった議員がいたので追加がほしかった。通告書の記載は要旨だけでよかったのでは。(70代・男性)
- 関連質問が連なる場合には質問事項を全て述べるほうがわかりやすい。(60代・男性)
- こんな質問をして何の役に立つのかと思われるものもある。(70代・男性)
- もう少しストレートな質問でも良いのではないかと。(女性)
- レベルの低い質問がある。(60代・男性)
- 質問するときに手を後ろに組んでいる議員がいた。(80代・男性)
- 皆さんまじめで礼儀正しくて気持ちが良いが、議会在議会の機能を全うしていない。(70代・男性)
- 町長の回答が明確で良いと思う。(60代・男性)
- 答弁がはきはきして聴き取りやすい。(70代・女性ほか1名)
- 答弁が流ちょうすぎて意図がよくわからない。(女性)
- 質問は予告してあるのだから事前に調べられるはず。事前に議員に尋ねて答えられるようにしておくべき。(70代・男性)
- もう少し突っ込んだやりとり、もっと前向きな答弁を期待する。(60代・男性)

議会の動き

9月6日 ～9月14日	9月議会定例会
9月6日	総務文教・産業建設・広報常任委員会
9月7日	議員懇談会
9月10日	国見の里敬老会
9月11日	町総合防災訓練
9月13日	正副議長委員長会議、全員協議会
9月14日	議会運営委員会、全員協議会
9月15日	町交通対策協議会
9月16日	義経まつり安全祈願
9月17日	町敬老会、市町村対抗福島県軟式野球大会(本宮市)
9月18日	国見町に咲く中尊寺連絵画コンクール表彰式
9月22日	義経まつり
9月27日	広報常任委員会
9月30日	桑折町国見町小学校陸上競技大会(桑折町)
10月1日	くにみ幼稚園運動会
10月2日	小坂大運動会、三県交流国見町少年柔道大会 オリンピックデーフェスタinくにみ
10月3日	広報常任委員会
10月4日	公立藤田総合病院組合議会全員協議会・議会定例会 総務文教常任委員会、産業建設常任委員会
10月5日	町表彰審査会
10月8日	市町村対抗福島県ソフトボール大会国見町チーム結団式
10月11日	広報常任委員会
10月15日	国見小学校学習発表会
10月16日	県北中学校柏葉祭
10月17日	県への要望活動(福島市) 産業建設常任委員会視察研修(三重県～18日)
10月18日	総務文教常任委員会視察研修(山形県～19日)
10月21日	議員懇談会
10月24日	伊達地方消防組合議会全員協議会・議会定例会 伊達地方衛生処理組合議会全員協議会・議会定例会
10月25日	全国町村議会広報研修会(東京都) 町幼小中一貫教育事業「くにみっ子まつり」
10月26日	議会報告懇談会(～28日)
10月28日	産業建設常任委員会
10月30日	町文化祭開会式
10月31日	町村議会議員研修会(郡山市)



今回もたくさんの方に傍聴していただきました

議会傍聴をしてみませんか

次の定例会は12月6日 開催予定です

- **手続きは簡単です!**
受付簿に住所・氏名などを記入するだけで気軽に傍聴できます。
- **議案資料を準備します!**
議案審議がわかりやすくなるよう、傍聴者には議案資料を提供します。

詳しくは議会事務局へ
お問い合わせ下さい。
TEL 585-3295 (直通)



議員さんって何をしているの？



樋口 卓弥さん
(幼小中学校PTA連絡協議会会長)

先日、議員に望むことを寄稿せよとのオファーをいただきました。私としては特にどうのこうの言うことはございませんが、議員さんって何をしているのだろうと思ひ、弊社の若い従業員に質問してみましたところ、「何をしているのかわかりません」との返答でした。唯一あつた答えが、「昔、街灯を増やすのに何やら集まって話をしていたのが、そうかなあ？」と。

最近、どこの地方議員が政務調査費を不正受給しているようですが、町長や役場が出すお金の使い道に、議会でYES・NOを出したり、条例を作ったり、役場がちゃんと事業を進めているのかチェックしたりもするのが、おもな仕事のようなのです。

太田町政になってから、国見町が使うお金が膨大（普通の町の3倍〜10倍？）になり、その使い道の良し悪しを判断するだけでも、大変な労力だろうと想像できます。

私たちの暮らしにとっても密接な課題を議論している町議会や議員に対して、ほとんど関心を持たない私たち有権者こそ罪であり、私たちひとりひとりの問題でもあることを自覚したいものです。

27年度の事業の成果を調査



内谷西の防火水槽を実際に見て確認

9月定例会会期中の9月8日、平成27年度の決算認定についての議案調査の一環として、平成27年度中に行われたおこな事業の成果を確認するため、議員全員で現地調査を行いました。

調査事業は以下のとおりです。

- ① 松くい虫防除（石母田）
- ② 内谷西防火水槽設置工事
- ③ 交流の場整備
- ④ 藤田方部4号仮置場整備
- ⑤ 文化センターホール改修工事・太陽光パネル設置工事

9月定例議会は、9月6日から14日までの9日間の日程で開催されました。

議会では、平成27年度の決算について様々な議論が交わされ、決算が認定されました。一般会計、実質収支は、5億5231万円の黒字決算、健全化判断比率は良好で、資金不足比率も黒字決算のため良好でした。

今後、道の駅建設を始めさまざまな重要施策がありますが、町、議会とも情報を共有して、町民主体の議会として取り組んでまいりますので、今後もよろしくご願ひ申し上げます。

(渡辺 勝弘)

- 発行責任者 東海林 一樹
議長 渡辺 勝弘
広報常任委員会 委員 佐藤 定男
副委員長 浅野 富男
委員 阿部 泰藏
同 松浦 常雄
同 村上 一

